

組織病理カラーアトラス [Web 付録付] 第3版

坂本 穆彦, 北川 昌伸, 菅野 純 著

＜書評者＞ 若狹 朋子 (近畿大奈良病院教授・病理診断科診療部長)

『組織病理カラーアトラス』が改訂されました。その内容は「さすが」の一言に尽きます。美しい写真とポイントをつかんだ文章が載っています。実習に来た医学生、初期研修医にも自信を持ってお薦めできる一冊です。

多くのアトラスは写真が9割、そこに文章が少し、だと思えますが、『組織病理カラーアトラス』は文章だけを読んでも十分に読み応えがあります。最先端の知見が厳選されてまとめられています。そして、それぞれの写真が手札サイズと大きいのです。手札サイズ(11×7.5 cm, 銀塩フィルムの時代の印画紙のサイズ)という言葉も使わなくなりましたが、写真が大きくて見やすいのがうれしい限りです。

医学生が一番読んでいる本といえば、(悔しいことではあります)が)国家試験対策本ではないでしょうか。でも国家試験対策本の病理写真は小さくて見づらいものが多いのです。これは印刷された国家試験の問題からコピーして作っているため画素が荒くなってしまい、拡大できないためだと思

いますが、とにかく小さくて、キーになる部分がわかりにくいのです。病理診断に必要な病変のアウトラインや顆粒を説明するためには、ある程度大きな写真が必要です。このアトラスは写真が十分に大きいので、授業、あるいは自習において非常に使いやすい本だと思います。

おまけに、冊子体だけでもすごく使いやすい上に、全ての組織病理写真がWeb付録で閲覧できるのです。どの写真も十分なデータ量があり、画面上で大きく引き伸ばしても全く問題ありません。若い方々はスマートフォンで見るとは思いますが、この写真はぜひとも大型画面で見ていただきたいと思います。本当にきれいです。ぜひお手元にお持ちになって、25インチ以上の大型画面で画像を堪能していただきたいと思います。

もう一つの特徴として、各章の初めには「基本構造のチェック」として正常解剖のわかりやすい模式図、スケッチと、解説が載っています。特に機能と絡めた構造の模式が秀逸です。この模式図、スケッチはどなたが書いたにせよ、

解剖学のみならず、生理学、病理学を十分に勉強した方が書かれたに違いありません。私の学生時代に“この本があれば”、“このスケッチがあれば”、どんなに知識の理解が進んだか、と思います。

学生時代、どのような教科書を選ぶべきか、と相談した時、私の恩師は「定期的に版を重ねている本がいい本だ」と教えてくれました。まさにこのアトラスは改訂を重ねた素晴らしい本です。『組織病理カラーアトラス』は医学生から、初期研修医、病理専門医をめざす方にも対応できるアトラスです。また全ての分野において、最新の知見がふんだんに入っていますので、ベテラン病理医の先生方もお薦めです。ぜひ、お手元に置かれてはいかがでしょうか。それだけの価値のある本です。

● B5判 頁434 2021年5月
定価: 13,200円
(本体 12,000円+税 10%)
[ISBN978-4-260-04590-2]
医学書院刊